

# 第 15 回自動車技術会通常総会

(昭和 36 年度春季大会)

自動車技術会春季大会は 4 月 25 日(火)総会を皮切りに 26 日(水), 27 日(木)にわたり会員多数の出席を得て開催された。

通常総会のほか, 第 11 回自動車技術会賞授賞式, パネルディスカッション, 学術映画の上映, SAE 大会の報告会, 学術講演会, 懇親会, 最終日には 6 班に分かれ見学会が行なわれた。

## 》第 15 回通常総会《

豊田会長議長となり 26 日(水) 9:30~10:30 学士会館において次の提出議題を審議・承認した。

- (1) 昭和 35 年度事業報告の件  
吉城常任理事から報告
- (2) 昭和 35 年度決算報告の件  
久保田会計担当理事より決算報告があり, つづいて中川監事より監査報告があり承認された。
- (3) 昭和 36 年度予算の件  
久保田会計担当理事から予算案の趣旨・説明があり満場異議なく承認された。
- (4) 名誉会員推せんの件  
吉城常任理事より, 小林明氏を名誉会員に推せんしたい旨発案があり, 審議の結果同氏を名誉会員にすることを承認。

小林明氏は名古屋大学工学部長を本年 3 月退官, 現在トヨタ自動車工業(株)中央技術研究所長。同氏は自動車技術会理事, 中央技術委員会委員長, 高速性能委員会委員長を歴任 63 才。

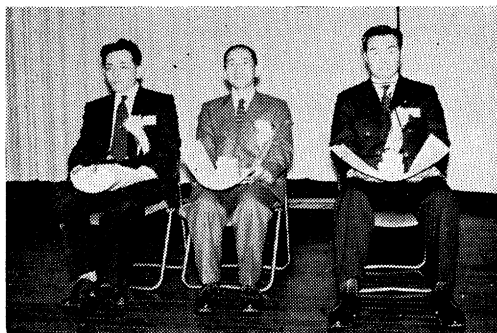
## 》第 11 回自動車技術会賞授賞《

自動車技術会賞審査委員長 川田正秋氏(東大教授)から審査の経過報告があり, 浅原名誉会員・豊田会長のあいさつのち, 次の 3 君に学術賞・技術賞が授与された。

学術賞 川合平夫君 (三菱重工業株式会社・名古屋自動車製作所)



第 1 図 パネル・ディスカッション



第 2 図 第 11 回自動車技術会賞授賞者。左から川合, 林, 近藤の諸君。

○自動車にかかる荷重と応力の頻度についての統計的考察

技術賞 林 守雄君 (ダイハツ工業株式会社)  
近藤克己君

○軽三輪貨物自動車の設計および開発

### 授賞者諸君の略歴

川合平夫君 大正 10 年 3 月 10 日生れ。  
昭和 16 年 12 月 東京物理学校理化学部卒。  
17 年 1 月 神戸製鋼所に入社。  
山田工場研究部勤務。  
30 年 11 月 三菱重工業(株)名古屋製作所に転じ, 構造物の強度に関する研究に従事。現在, 同社名古屋自動車製作所車両研究課構造試験係長。

林 守雄君 明治 43 年 6 月 8 日生れ。  
昭和 8 年 3 月 東京大学工学部機械工学科卒。  
10 年 3 月 " 大学院修了。  
10 年 4 月 川西航空機(株)に入社。  
設計課長, 研究課長, 技術指導  
21 年 5 月 課長を歴任。  
23 年 2 月 ダイハツ工業(株)に入社。  
設計課長, 研究課長, 乗用車課長, 検査課長, 工場次長, 技術部次長, 工作部長を歴任。  
現在同社技術本部長付き

近藤克己君 大正 13 年 2 月 19 日生れ。  
昭和 21 年 9 月 京都大学工学部応用物理科卒。  
22 年 10 月 ダイハツ工業(株)に入社。  
設計課, 研究室, 研究課を経て現在に至る。

## 》パネル・ディスカッション《

はじめての企みとしていま話題の中心になつてゐる「貿易の自由化と自動車技術」について, 4 月 25 日(火) 13:00 から業界代表浅原源七自動車工業会長, 技術的な面を川田正秋東大教授, 経済界より小島干二郎東京銀行

**賞 状**

1. 自動車にかかる荷重と応力の頻度についての統計的考察  
 三菱重工業株式会社名古屋自動車製作所  
 合平夫君

右は自動車が走行中に受ける変動荷重とそれによる構造部材の動的応力の統計的数値を理論的および実験的に解明してその発生確率を推定する基礎を提案し、自動車の疲れ強度の解析方法に寄与した。本会は審査の結果その自動車工学向上に寄与せる功績顕著なるを認め第 11 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 36 年 4 月 25 日  
 自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋  
 社団法人自動車技術会 会長 豊田英二

**賞 状**

1. 軽三輪貨物自動車の設計および開発  
 ダイハツ工業株式会社  
 林 守 雄 君  
 近 藤 克 己 君

右は日本において独特の開発をされている三輪自動車について殊に新しい構想の軽三輪貨物自動車の設計により日本の事情に適した経済的な車の実用化を来たし自動車技術面に新しい分野を確立した。本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第 11 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 36 年 4 月 25 日  
 自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋  
 社団法人自動車技術会 会長 豊田英二

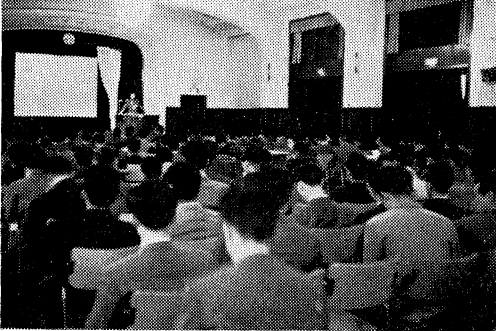
調査部長代理、官界からは佐々木学通産省自動車課長が出席、司会を古城肇常任理事が担当、活発な討論が行なわれた。傍聴者は 100 名余で緊急を要する問題であるため熱心な質疑応答があり予定時間を越え盛会裡のうちに終了した。

》SAE 国際会議の報告会《

本年 1 月 9 日～13 日アメリカのデトロイトにおいて開催された友好団体の SAE 国際会議に豊田会長をはじめ、古城常任理事、中田金市君（運輸技術研究所長）、中村弘道君（日産自動車設計部）、ならびに山本峰雄君（東京農工大教授）らが出席されたので、4 月 26 日（水）9:30～11:00 東京・神田「学士会館」において、古城・中田・中村・山本の 4 君に出席した会場の模様や、各人の提出論文の発表があり、それぞれ専門の立場よりアメリカ技術視察談が発表された。

》学術講演会《

4 月 26 日（水）12:30～16:30 にわたり 18 題目の春季学術講演会が開かれた。第 1 会場には浅野弥祐千葉大学教授、堀口貞雄千葉工大教授、近藤政市東工大助教授が担当、第 2 会場では関敏郎早大教授、大東俊一岡山大学教授、平尾収東大教授が出席、両会場とも終始満員



第 3 図 満員の講演会場で熱心に聞く会員諸君

の盛況で質疑応答が活発に行なわれた。なお講演題目は本誌 Vol. 15, No. 4, p. 198 に、発表論文は順次本誌および論文集に掲載する予定である。

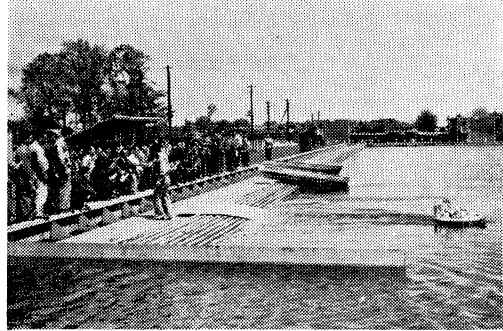
》懇 親 会《

同日 17:30～19:30 神田「学士会館」にて 39 名の出席を得て行なわれた。

》見 学 会《

4 月 27 日（木）次の 6 班に分かれて見学会が行なわれた。なかでも 2 班と 6 班は申込みが定員の 3 倍を超え、厳密な抽せんによつて参加者を決定したほどであった。

- 第 1 班 運輸技術研究所 } 参加者 36 名  
 航空技術研究所 }
- 第 2 班 ブリヂストンタイヤ(株) } 参加者 49 名  
 国鉄技術研究所 }
- 第 3 班 日本無線(株) } 参加者 25 名  
 日本電子光学研究所 }
- 第 4 班 三井金属中央研究所 } 参加者 24 名  
 電電公社電気通信研究所 }
- 第 5 班 防衛大学校 } 参加者 17 名  
 日本冷蔵(株) 三崎工場 }
- 第 6 班 東洋歯車(株) } 参加者 44 名  
 日産ディーゼル工業(株) }



第 4 図 第 1 班の運研で貯水槽を見学する参加者